

平成27年度第4回熊本市中央区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

【日時】：平成28年2月12日（金） 16：00～17：15

【場所】：熊本市現代美術館 5階会議室アートロフト

【出席委員】：14名出席

古賀会長、杉光副会長、芥川委員、阿久根委員、今坂委員、草野委員、田口委員、谷口委員、田原委員、高智穂委員、鳥崎委員、沼田委員、榊田委員、南委員

【議事要旨】

1・開会

2・議事

（1）中央区まちづくり事業に関する協議結果の報告

資料1に基づき、古賀会長より報告。

（2）平成27年度中央区まちづくり推進事業について

資料2に基づき、事務局及び「水前寺賑わいづくり支援事業」について杉光副会長より説明。

（古賀会長）ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

なし

（3）平成28年度中央区まちづくり推進経費（案）について

資料3に基づき、事務局より説明。

（古賀会長）ご意見、ご質問はあるか。

（高智穂委員）「中央区・校区カルタ制作事業」について、校区は校区の方々がワークショップ等でカルタを作られていると思うが、中央区のカルタはどういった方々で制作をされるのか。

（まちづくり推進課）まだ決まってないが、全校区の方が参加していただくということで、ワークショップも含めて委託業者を定めて、委託業者と相談しながら進めて行く予定。

（鳥崎委員）新規事業の「一緒にたべるとおいしいよ！」おしゃべり広場」について、食育改善委員（以下「食改」。）の中央支部の会長と民生委員の一人として話をしたが、民生委員が呼んできて一緒にご飯を食べるということと思う。本当のところ、その1回だけではなくて、こういう食生活をこの人はしているが、ここを改善したほうが良いというような、例えば一緒に作ったりできるといいと思う。この点を意識して、28年度取り組んでみてはいかがか。私も参加者への呼びかけに協力したいと思っている。

（古賀会長）単発として集まるだけではなく、一緒に作る、具体的には、食生活の改善や見直しにつながるようなことも念頭にいれ進めていただきたいというご意見。

（保健子ども課）呼びかけは、民生委員さんのご協力をお願いして多くの方に働きかけをしていただき、そういう場に出ていただくような、きっかけづくりになれば。この事業の目的は外に出かけて交流をすると

ということと、ご提案のとおり、健康のためにバランスがとれた食生活や、減塩食など、そういう食べ物に対する知識等を学んでいただくことも大切なこと。今年度、校区で1回ということで9校区呼びかけて45万円の予算を計上しているところだが、それを更に踏み込んでいって調理実習まで、広がっていければということは再来年度以降、あるいは、来年度も、そこまで踏み込んで事業計画までお願いをしたいと考えている。今のご提案も含めて、来年度事業に反映させるようにということで考えてまいりたい。

(鳥崎委員) 7番の「Start-up 中央区」について、前回のこの懇話会では、若い人を中心にまちづくりに関心をもってもらう事業として展開をしたいという話があり、その後、具体的にどういふ方々が中心になって企画をするのか、今の段階でみえているのか

(総務企画課) 事業については、まだ計画中でどの年代を募集するかということも決まってないが、前回の懇話会で、中高生を入れてはどうかというご意見もあったので、そのあたりも含めて、またいくつまでという制限を設けるのかということも含めて検討中。

(古賀会長) 28年度は、本委員会でもアドバイスなど関わっていけるのかなと思う。

(鳥崎委員) 28年度予算の中で実現できそうなものは、そこまでやってみたいという説明が前回あった、ということはかなり早くスタートさせないと28年度中になんらかのことができないのではと思うが、一応その可能性はあるのか。

(総務企画課) 事業化をするということより、自分のアイデアを具体的に実践してみるというようなまず小さいことから始めるような形で、この事業ができないかと思っている。それを来年度以降、継続していくような形で今計画をしているところだが、どの時期にスタートするのかというような詳細については、検討中でまだ決まっていない、

補足で、当初は、委員がおっしゃったように28年度中に事業化できないかということも考えていたところだが、翌年度事業となると、中央区の場合、この懇話会にあげて、いろいろご意見をいただいてという形をとっている。来年度以降の事業を募集していくが、締め切りが6月末、7月になるので、年度当初の3ヶ月に事業をやるとなると少し無理がある、いい提案をたたいていくためには時間が必要だと考えており、来年度いっぱい、この事業を実施し、いい提案があればそれをたたいて、その翌年以降に実施と考えている。

(今坂委員) 新規事業の「一緒にたべるとおいしいよ！」おしゃべり広場」について、調理実習などというご提案があったが、地域コミュニティセンターは調理実習用ではない。炊き出し用なので、一緒に何か作りましょうというのは、とても困難。そういう場合は、小学校の調理室を借りられると調理実習の形がとれると思う。大きい鍋と広い台が置いてあり、それぞれが経験しながらできるので、小学校とタイアップで考えると調理実習が実現しやすいと思う。

(古賀会長) 貴重な情報をありがとうございます。

(田口会長) 「一緒にたべるとおいしいよ！」おしゃべり広場」について、食改を中心と書いてあるが、実際、校区、町内によっては、福祉ネットワークが中心となって活動しているところもある。例として出水南は、年に1回各町内から外出しづらい人を5人ずつ選定し、そして送り迎えをして湧心苑という施設に集めてそこでレクリエーションや食事などで、出かけることと触れ合うことをやっている。町内によっては、毎月食事会をやっているというところがある。既存のところは援助できないということだが、そういったところを探すときに、拡大できればと思う。食改を中心とすると限定されるのでは。福祉ネ

ネットワークが中心とした協力体制も必要ではないかと思う。

(保健子ども課) 昨年の秋に実施された出水南の湧心苑の集いには参加させていただき、委員のおっしゃるとおり、食事の提供だけではなく、お楽しみとして演芸や子ども達のコーラスなど非常に有意義な時間を皆さんすごされているなど感じた。今回の提案については、ここに書いてあるように食改からの提案ということで上がっているの、食改と既存組織などとタイアップをしてこの事業を実施すると更に相乗効果が得られると思っている。中央支部の紫垣支部長からのご提案なので、資料にはこのような表現にだが、似たような一緒に共催ができる団体があれば、そちらと共催をして、より相乗効果を高めた事業になればと感じております。ありがとうございます。

(谷口委員) 関連するが、先ほど、食改と 8020 の方々、施設の方と健康づくりを地域の中で進めて行こうと話し合いをしてきた。その中で、この「一緒に食べるとおいしいよ！」おしゃべり広場 8020 と「食べて話してつながろう」について話をし、やはり食と口の健康は繋がっていることなので、タイアップしながら、一緒にやっていくということも考えていかれるのはどうか。それと子ども、今「子ども食堂」などが始まっているところもあるが、子どもと高齢者のつながり、そういう接点を「一緒に食べるとおいしいよ」

で交流ができるといいかなという話がでていた、

(保健子ども課) 食改と 8020 との協働については、ご存知のとおり、両方兼ねていらっしゃる方も数多いので、連携、協力しあって進めていけるのではと思っている。委員がおっしゃるように、この事業は、食改さんだけで実施できるものではないし、民生委員協議会のお力もお借りしたいと思うし、ささえりあの方もお借りしながら、いろんな力を合わせてやっていきたいと考えている。最後におっしゃった子ども達とのふれあいという部分に関しては、具体的な方向性は見えていないが、2つの事業があるので、その中で子ども達とのふれあいなども含めて 8020、食改、食べて話してつながろう中央区の方も含めてみんな知恵をしぼって、将来的に考える必要があるのかなと思っている。ありがとうございます。

(南委員) 「アクティブシニア増殖プロジェクト」についてお尋ねだが、昨年実施されたとき、結局市の行事をやっていききたいということで流れて行ったと思うが、今回も、おふたり地域活動をやりたいというお話があったが、結局全体的なことに流れて行くという。悪いことではないが、校区のほうになんとか残っていくようなつなげるような「増殖プロジェクト」が何か出来ないかなと。公民館でやっても同じようなことになると思う。結局は、各校区で探し出していけないといけないのかなと今感じている。何とかならないかなということで質問させていただいたが。

(古賀会長) 今のご質問は、校区で活動する人材をどう作っていくかということか。

(総務企画課) 校区の中で、人材発掘、育成が難しいというところもあれば、その中でも結構うまくいっている、こういう方法が良かったなどきいているところ。そういう情報を研修会や、まちづくりマガジン等で紹介できればと思っている。事業で実施するとなると、地域、校区でそれぞれ事情も違うし、受け入れ側の体制も違う、地域の情報も集まってきているので、まず、地域活動をされたいという方が何をしたいか、また受け入れ側がどういったことを望んでいるか、ニーズをこちらで理解して、マッチングが上手くできればと思っている。

(杉光副会長) 5番の「井手の魅力再発見事業」について、平成 28 年度も学習会「大井手の楽校開催」とあるが、この後、教科書作成とあるが、これは、中央区の学校にということなのか。どういった形で配布を考えているのか。

(総務企画課) 大井手については、託麻原校区、大江校区、白川校区、3校区ある。現状、環境学習ということで、託麻原小学校の5年生が取り組んでいるが、他の学校にも広げていただきたい。冊子をつくり、小学校の皆さんでも、大井手は、農業用水で、どのような形で使われているか、市民の憩いの場になっているというところを広めていきたい。

沿線の方々についても、せっかく中央区を流れる歴史的な財産なので、そういったところをもう少し認知していただきたいということで、活用を広げていきたい。また、支援の輪を広げていく、大井手を守る会の活動、清掃活動をやっているから、そういう輪を広げていきたいということで、まず少しずつでも輪をひろっていき、そういった組織をつくっていただきたいと、私達もそこに入っていくが、地域の方々の輪をもっと広げていきたいということで、28年度も引き続き大井手の楽校や、里川歩きどういったことで魅力を発見していただきたいということで、継続事業としたい。

(鳥崎委員) 先ほど、南委員のお話があった件で、私も少し関わったので、27年度について、少し感想を話したい。大江校区から5人参加したが、そのうち2人は私がまったく知らない方で、そういった方が引き続き自分が向いている活動を見つけたので続けていきたいといわれた。後の3人は、校区の一部の活動に参加されていたが他のイベントや活動をご紹介したら、そちらの中でも関心のあるものを見つけていただき、関わっていただけることになった。大江校区だけ得したようで申し訳なかったが、上手くいったのは、事務局でもいわれたように、その人の得意分野や、意向にいかにかうまく沿った受け入れを行ったからだと思った。どんな人でどんなことをやりたいかということ、私が講師と呼ばれたこともあり、いろいろ話をして、それだったら、これはどうですかというようなことをやったので、その後、自分のやりたいことが見つかったのではと思う。ご説明の中で、今後、まちづくり支援強化対策の中で、担い手育成がとても重要なことになってきて、おそらくまちづくり推進課で何かやりたいけれどもとやってきた人をお世話することになっていくのだろうと思う、ここまでまちづくり推進課の方がとても中央区の中の活動の情報を集めていらっしゃるの、その中でどれがいいだろうかと、できるだけ丁寧に対応して説明すれば、その方のやる気が生かされていくのではないかと思う。

(古賀会長) 時間の関係でご意見、ご質問はここまでとする。今年度の新規事業「井手の魅力再発見事業」について、どこまで具体化できるのだろうかという心配していた。そういった意味で、熊本大学政策創造研究教育センターの田中先生の協力で、田中先生は先般、世界遺産で話題になっていた天草にも関わっていて、計画や歴史的な景観が専門である、熊本市においては、南区のまちづくり懇話会の会長をしていて、北区でもお手伝いをしている。そして中央区でもお手伝いいただいている。この懇話会の課題は中央区のまちづくりにとどまっているが、いずれ南区の緑川や北区の植木の方にもいろんな川があるので、トータルで、熊本市の里川再発見など5区が協力できるプロジェクトが、3年後、4年後できるという夢のような話もあると受け止めた。もちろん中央区のまちづくり懇話会ではそこまでの権限はないが、そういった方向性があってもいいかなと考えたところ。

いま、委員の皆さんからいただいた意見を参考にし、平成28年度まちづくり事業の推進に努めていただきたい。

(4) その他について

(事務局) 資料4に基づき、来年度の懇話会スケジュール等の説明

(古賀会長) これをもって議事を終了する。